

カトリック仙台司教区・カリタス・ジャパン 東日本大震災救援・復興活動ニュースレター

発行人：平賀徹夫 編集：小松史朗
〒980-0014 仙台市青葉区本町1-2-12
カトリック仙台司教区事務局
Tel.022-222-7371 Fax022-222-7378
1) 義援金振替口座：02260-9-2305
名義：カトリック仙台司教区本部事務局
2) 支援金振替口座：00170-5-95979
名義：カリタスジャパン

去る4月2日釜石市の平田(へいた)仮設で、岩手沿岸カリタスベース(宮古・大槌・釜石・大船渡)合同の炊き出しイベントが行われました。それぞれのベースの母体となる地区の名物を平田仮設の方々に振る舞い、大いに喜ばれました。イベントの応援で、鎌倉の栄光学園の学生や田園調布雙葉の学生と引率教員も加わり、大盛況の一日でした。岩手沿岸4つのベース合同のイベントは初めてでしたが、終わりにこれからも続けましょうとの約束で解散となりました。

釜石市訪問活動記！

田園調布雙葉
高等学校

本校では、昨年4月に被災地支援プロジェクトを立ち上げ、支援活動を行ってききましたが、今回、宿泊を伴う被災地訪問としては初めて、高2生徒有志24名が引率教員4名と共に岩手県沿岸部を訪れ、学ぶ機会を得ました。

4月2日には、釜石ベースの方々のご尽力で、他ベースの方々や私立栄光学園の生徒有志と共に、釜石平田第1第2仮設住宅で「グルメフェア」やゲーム大会を行い、400名以上の方々に訪れていただきました。



満面の笑みで、いらっしゃいませ！

本校生徒は、焼きそば・ホットケーキ・飲み物の提供と、ビンゴ・お絵描き・手芸・合唱で現地の方々と交流。イベントの初めには、生徒手作りのクッキーを配りながら、イベントの告知とお誘いのための戸別訪問を行いました。



合唱で喜びを伝えよう！

子どもたちの笑顔や、「こんなにビンゴが楽しいとは思わなかった」という言葉をいただくなど、生徒たち

にとって大変意義深い体験となりました。夕の祈りの中で、「私たちにはこのイベントを開くような些細なことしかできませんが、その様子や感じたことを周りの方々やこれから先の人生で出会う多くの方に伝えることが、私たちの使命だと思います」、と生徒は話しています。支えてくださった全ての方々に感謝申し上げます。

釜石ベースを中心にイベント成功！

今回、栄光学園10名、田園調布雙葉24名という大勢の生徒が来ることとなり、その対応の過程で企画化されました。企画に当たっては、近隣のベースの協力を仰ぐことで、将来、予想できなかった課題に対応する方策の一つとして、有効な手段となるのではないかと意見の中で大船渡・大槌・宮古ベースの協力を仰いだのですが、大変忙しい中でありながらも、他のベース長が快く受け入れてくださったおかげで、大成功のうちに成し遂げることが出来ました。

おかげさまで当日の来場者は500名を超え、うれしい悲鳴が上がるほど大盛況でした。ホットケーキ、焼きそば、お絵かき、ビーズ作り、飲み物作りなど、学生に混じって各ベースのボランティアが活発にリードし、学生の皆さんは、「普段経験することのない環境の中で、たくさんのことを学ばせていただきました」との感想を述べ、生き生きとしていました。



宮古ベースは北海道の味ジンギスカン！

釜石ベースでは、今回のようなケースに対応するため、釜石近辺の様々な活動団体・旅館に打診し、あらゆる事態にも対応できる体制を構築したいと考えており、同時に、緊急課題をしっかりと捕えながら、被害を受けた地域の現状をお伝えしてゆきたいと思っております。

大槌から九州の特産物を！

釜石、大船渡、大槌町、宮古のカリタスジャパンが一堂に会して、釜石の平田の仮設住宅でイベントを行い、住民の方々の労をねぎらった。

大槌ベースは長崎の産物や海産物を安く提供し、その収益の一部を使って、釜石の伝統芸能の被災で流された道具類の新調に資金援助をしたいと、イベントに参加。当日は好天に恵まれ、風も弱く、食事は無料で提供されたためか、長蛇の列が出来、主催者側には嬉しい悲鳴がきかれたが、住民の方々には忍耐の順番待ちであった。



九州を売りつくせ！

大槌ベースの長崎物産もお腹が落ち着くにつれ、来店者も多く、最後は強引に値引きをされる主婦も現れ、それに負けて大安売りも始まった。

最後は焼きそばで奮闘していた女子高生の合唱が体育館で行われ、ボランティア、住宅の方々ともに参加して合唱を楽しんだ。



栄光学園からカニ汁！

その他体育館は子どもたちのために、ビンゴや縁日、そして高校生のお手伝いで子供たちも楽しむことができたと思う。

大船渡は大阪の味たこ焼きで勝負！



たこ焼き隊準備完了！

初めての鉄板たこ焼き器でのたこ焼きにチャレンジ！ 火加減や、油のひき具合、すべてがいつも行っている電気のたこ焼き器とは違いはじめはあわてました。そんな不安と期待の入り混じる中、イベント準備をしていました。

大船渡ベースからは12名がイベントのお手伝いに行かせていただきました。限定200食(1食5個)での、配布。今回、メインで焼いてくれたのは、山口から来た学生たちでした。前日から、しっかりと準備をして焼き加減やタイミングを確認したものの、当日になり人が来るとあわててしまうところもありました。

配食開始前から、たこ焼きを楽しみにしてくださる方が来て下さり嬉しかったです。配食開始時間になってからは、常に焼き上がりを待っている人もいるという、大盛況ぶりでした。大阪のたこ焼き(今回は、山口で捕れたたこだったのですが)は、東北でも人気です。